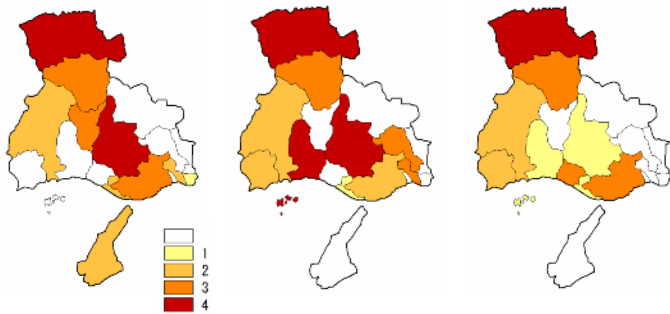


全国の情報は国立感染症研究所感染症情報センターホームページにてご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

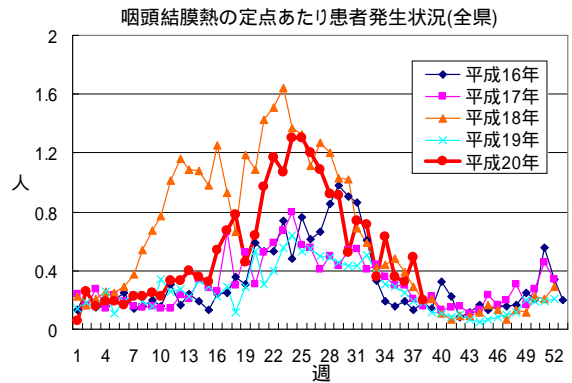
定点把握感染症(指定された医療機関から報告を求める感染症です)

咽頭結膜熱

今週報告数は減少しました。毎週増減をしながらも減少傾向にあります。豊岡保健所で例年よりも報告数が多くなっています。



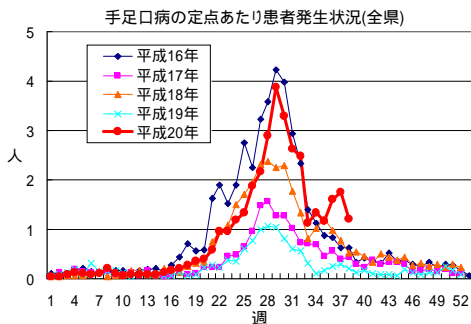
36 週 (9/1 ~ 9/7) 37 週 (9/8 ~ 9/14) 38 週 (9/15 ~ 9/21)



その他の感染症の概況

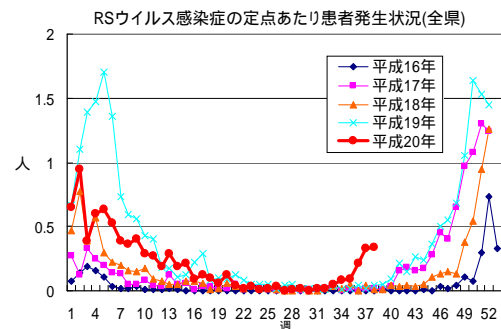
手足口病

今週、報告数は減少しましたが、例年より報告数が多い状況です。夏季に流行する感染症ですが、秋から冬にかけても多少の発生がみられるため、もうしばらく注意が必要です。



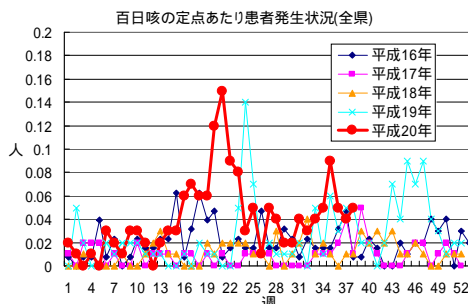
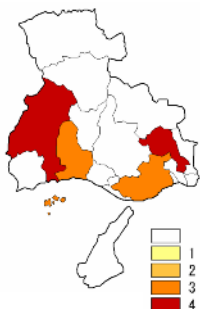
RSウイルス感染症

今週、報告数は横ばいでした。例年よりも報告数が多くなっており、今季は流行の立ち上がりが早いようです。今後の動向に注意が必要です。

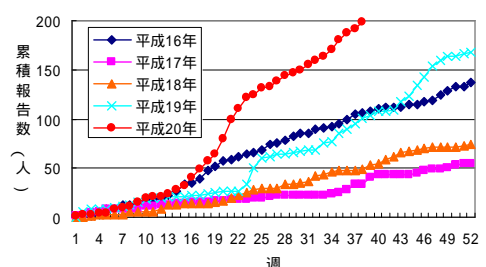


百日咳

今週、報告数は 6 人でした。累積報告数は過去 5 年間の同時期と比較して最も多い状況です。地域別にみると、先週に引き続き、龍野、宝塚保健所管内での報告数が多くなっています。



百日咳の累積患者数の推移(全県)



定点あたり患者数の上位 10 位の疾病

| | 疾病名 | 定点あたり患者数 | | 増減 | | 疾病名 | 定点あたり患者数 | | 増減 |
|----|---------------|----------|------|--------|-----|------------|----------|------|--------|
| | | 今週 | 先週 | | | | 今週 | 先週 | |
| 1位 | 感染性胃腸炎 | 2.91 | 3.29 | - 0.38 | 6位 | 水痘 | 0.37 | 0.42 | - 0.05 |
| 2位 | 手足口病 | 1.20 | 1.74 | - 0.54 | 7位 | RS ウイルス感染症 | 0.34 | 0.33 | + 0.01 |
| 3位 | 突発性発しん | 0.82 | 0.71 | + 0.11 | 8位 | 流行性耳下腺炎 | 0.33 | 0.47 | - 0.14 |
| 4位 | 流行性角結膜炎 | 0.71 | 0.71 | ± 0.00 | 9位 | ヘルパンギーナ | 0.26 | 0.53 | - 0.27 |
| 5位 | A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎 | 0.41 | 0.50 | - 0.09 | 10位 | 咽頭結膜熱 | 0.20 | 0.49 | - 0.29 |

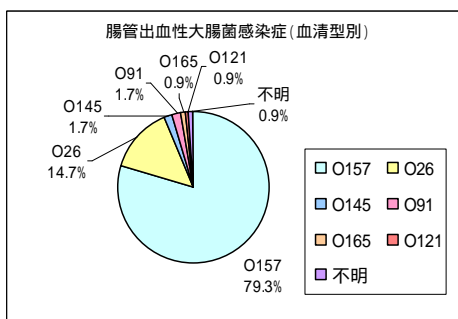
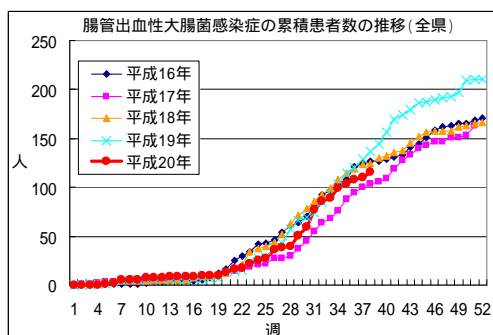
全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症です）

| | |
|--------|--|
| 1 類感染症 | 報告はありません。 |
| 2 類感染症 | 結核 24名 （神戸市 10名、尼崎市 2名、姫路市 3名、西宮市 4名、伊丹保健所管内 1名、宝塚保健所管内 1名、加古川保健所管内 1名、龍野保健所管内 1名、洲本保健所管内 1名） |
| 3 類感染症 | 腸管出血性大腸菌感染症 6名 （神戸市 3名；O157 VT2+ 2名・うち 1名海外渡航者、O157 VT1+VT2+ 1名、姫路市 1名；O157 VT1+VT2+、龍野保健所管内 2名；O157 VT1+VT2+/HUS, O157 VT 型不明・同一家族） |
| 4 類感染症 | 報告はありません。 |
| 5 類感染症 | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1名 （社保健所管内；耐性遺伝子 VANC） 麻しん 1名 （姫路市 1名；25歳/修飾麻しん/ワクチン接種歴不明） |
| 追加報告 | 結核 8名 （姫路市 1名；第 37 週、宝塚保健所管内 1名；第 34 週、洲本保健所管内 6名；第 34 週 1名, 第 35 週 2名, 第 36 週 3名） 後天性免疫不全症候群 1名 （第 31 週/無症候性キャリア） 梅毒 1名 （尼崎市；第 36 週/無症候） |

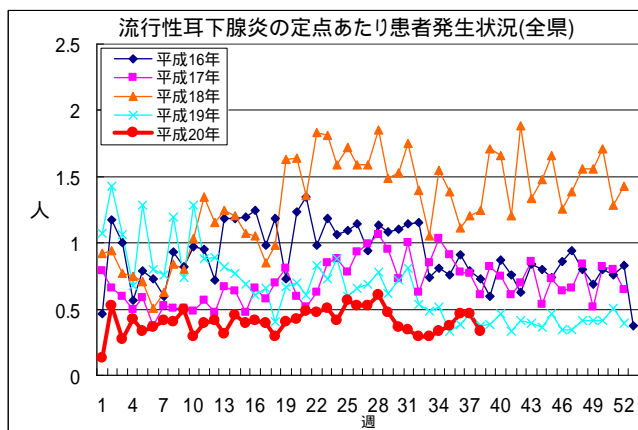
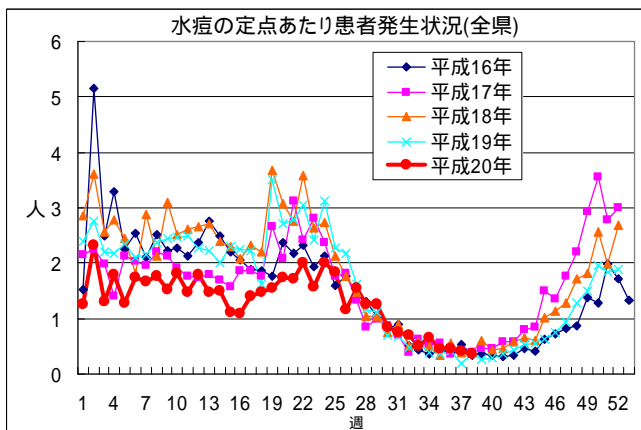
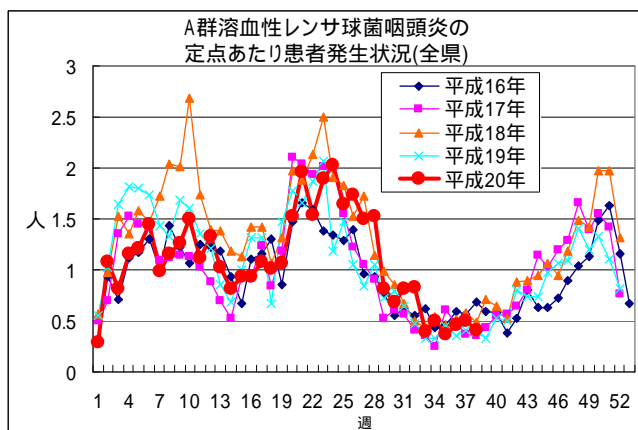
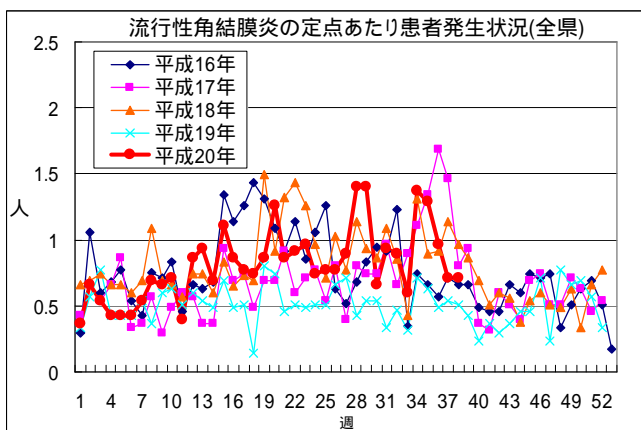
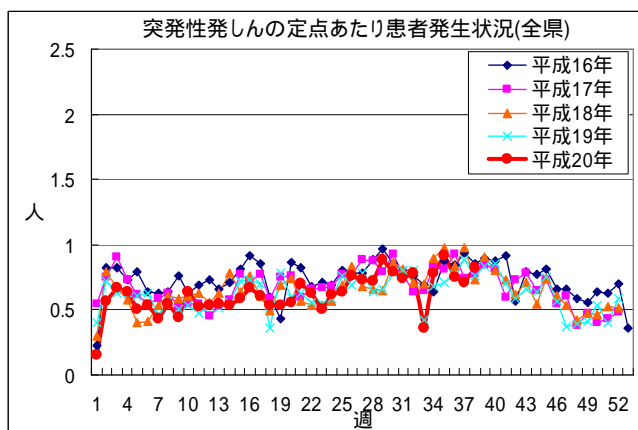
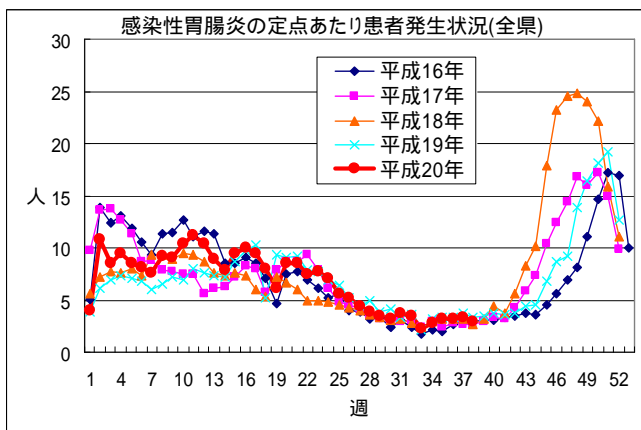
腸管出血性大腸菌感染症

今週、6名の腸管出血性大腸菌感染症の報告があり、第38週現在の累積報告数は116名となっています。今週報告のあった者のうち1名（5歳）は溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症しており、今年2例目の報告です。小児、高齢者等は重症化しやすく、肉・レバーなどの生食はしない、生肉に使用した箸やまな板は使い分けるなど、感染予防が大切です。

血清型別に見ると、現在のところO157が約79%、O26が約15%、その他が約6%を占めています。



目で見える動向（県内）



この週報は兵庫県立健康環境科学研究所ホームページ <http://www.hyogo-iphes.jp/> にも掲載しています。

また、<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> から国立感染症研究所感染症情報センターの週報(IDWR)がダウンロードできます。